

アラビアンナイトの形成過程とオリエンタリズム的文学空間 創出メカニズムの解明

Studies on the history of the *Arabian Nights* and its influence upon
the literary genesis of Orientalism

西尾哲夫 (Tetsuo Nishio)
国立民族学博物館・民族文化研究部・教授



研究の概要

本研究では、中世イスラーム社会研究の第一級資料としてのアラビアンナイトが持つ社会文化史的意義に着目し、世界に散在する文献資料の発掘、整理、分析を通して中東世界における同物語集の原型、社会的受容、変遷を究明するとともに、中世イスラーム文化の基部構造を再構築する。

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：その他の各国文学・アラブ文学

1. 研究開始当初の背景

アラビアンナイト（千一夜物語）は西暦9～10世紀ごろのバグダードで原型が成立し、15～16世紀ごろのカイロでほぼ完成した。中東では忘れられたが、18世紀のフランス人東洋学者アントワヌ・ガランによるフランス語訳を通して世界文学となった。ヨーロッパ紹介後のアラビアンナイトは、オリエンタリズムという巨大な文化潮流によって重大な質的变化を経験し、現代における一般の中東イメージ構築への地下水脈としての役割を果たしてきた。

2. 研究の目的

本研究では、これまで等閑視されてきた中世イスラーム社会研究の第一級資料としてのアラビアンナイトが持つ社会文化史的意義に着目し、世界に散在する種々の文献資料の発掘、整理、分析を通して中東世界における同物語集の原型、社会的受容、変遷を究明するとともに、中世イスラーム文化の基部構造を再構築する。

3. 研究の方法

具体的には、(1) 中世イスラーム世界におけるガラン訳アラビアンナイト出現以前（17世紀以前）のアラビアンナイト形成過程、(2) ガラン訳アラビアンナイト出現以降（18世紀以降）のアラビアンナイト受容による文明間イメージ形成と文学テキスト生成の相互作用を明らかにする。

4. これまでの成果

●写本に関する海外調査と書誌情報データベース作成：欧米の大学や図書館に所蔵される写本のリストを作成し、形態や内容について現地調査を行った。中東地域でもトルコとチュニジアで調査を行った。全写本をデジタル化し、写本データベースを作成した。本研究で新発見された写本もあり、重要な貢献となるであろう。

●原典コーパスとアラブ民衆文化語彙電子辞書の作成：カルカット第2版の全文テキストデータベースを構築し、ASCII入力された元データのアラビア文字への変換手法を開発してアラビア文字表示が可能となった。シン

ドバード物語をコーパスとして制作した「アラビアンナイト Web データベース試作版」では、検索されたアラビア文字列に関して電子テキ



ストデータおよびカルカット第2版印刷本の該当箇所PDFデータがウェブ上で閲覧・検索できるようになった。（上図はアラビア語で「シンドバード」の名前を検索した画面）

●物語モチーフ索引の作成：海外研究協力者であるシロンバル博士より提供された、アラビアンナイト物語モチーフ索引「Esquisse d' un index des motifs dans les mille et une nuits」を改訂・増補した後、データベース化のための英語訳を終了した。

〔4. これまでの成果 (続き)〕

●欧米・中東・日本における出版書誌情報データベース作成：18世紀に出版されたアラビアンナイトの網羅的な書誌目録を作成した。ガラン仏訳初版と18世紀に刊行されヨーロッパ中に大きな影響を及ぼした英語版とを比較する作業を行っている。

●挿絵画像データベース作成：国立民族学博物館所蔵アラビアンナイト・コレクションについて、挿絵等に関する画像データベースを作成しており、英語・仏語についてはほぼ終了し、その他の言語版と児童書に対する作業を継続中である。

●欧米・中東・日本におけるアラビアンナイト受容に関する調査：①アラビアンナイトの仏訳者として名高いマルドリユスが遺品として残した関連資料に対して、遺族との10年にわたる交渉の結果、調査許可を得ることができ、膨大な資料の目録作成とデジタル保存化の作業を開始した。②コモロ諸島を中心とするインド洋西部地域にてアラビアンナイト類話を採集することができ、インド起源とされてきたアラビアンナイト系の物語が現在でもインド洋地域に分布していることが新たに確認できた。③北アフリカに伝播、より古い枠形式をもつ「百一夜物語」に関する調査を行い、現在の刊本には未利用の写本資料を入手することができた。

●国内および海外での国際研究集会：「アラビアンナイト写本とテキスト形成の修辞学ワークショップ」と題した国際ワークショップを2回開催した。平成19年度は、フランスにおけるアラビアンナイト研究の第一人者であるM・シロンバル博士を招へいし、アラビアンナイト写本とテキスト形成をめぐる最近の研究動向と問題点について討論した。平成20年度は、コモロ民話専門家のM・アラウイー博士(国立レユニオン高等美術学校)を招へいし、インド洋地域での類話分布について討論した。

研究分担者の青柳と鷺見がそれぞれオックスフォード大学ラウンドテーブルならびにカリフォルニア州立大学でのアメリカ比較文学学会年次大会に招待され講演した。

●アラビアンナイトとオリエンタリズムの文学空間をめぐる検討状況：上記のような写本調査や原典テキストデータベース、物語モチーフ索引データベース等の作成により研究基盤が整いつつあるとともに、受容過程の分析を通じて、従来の原典分類・解釈それに基づく翻訳や研究が当時のアラビアンナイト観、ひいてはオリエンタリズムという時代精神にいかん影響を受けていたかが明らかになりつつある。

5. 今後の計画

以下の作業を継続実施する。

(1) アラビアンナイト形成過程分析のための基礎データ作成

(2) アラビアンナイト受容過程分析のための基礎データ作成

(3) アラビアンナイト受容の海外調査

(4) アラビアンナイト受容の国内調査

(5) 国際的な研究会および展示会の開催

6. これまでの発表論文等 (受賞等も含む)

(研究代表者は太字、研究分担者は二重下線、連携研究者は一重下線)

青柳悦子 単著 2009年『デリダで読む『千夜一夜』』東京：新曜社。(印刷中、5月出版予定)

西尾哲夫 単著 2007年『アラビアンナイト—文明のはざまに生まれた物語』(岩波新書) 東京：岩波書店。

杉田英明 単著 2009年「戦後日本の『アラビアン・ナイト』(続)—文学作品と戯曲・映画を中心に」『外国語研究紀要』第13号、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部、pp.1~104。

杉田英明 単著 2008年「戦後日本の『アラビアン・ナイト』—翻訳と研究・批評を中心に」『外国語研究紀要』第12号、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部、pp.1~60。

鷺見朗子 単著 2008年“Poetry and Architecture: A Double Imitation in the Siniyyah of Ahmad Shawqi”, *Journal of Arabic Literature* vol. 39 no.1, pp.72~122.

杉田英明 単著 2007年「『アラビアン・ナイト』原典購読事始—昭和前期におけるアラビア語研究の先達たち」『東洋文化』第87号、東京大学東洋文化研究所、pp.205~225。

西尾哲夫 単著 2006年「アラビアンナイトと中東世界の女性観—カイドの概念をめぐる」『比較文学研究』第87号(中東特輯)、東大比較文学学会、pp.3~16。

青柳悦子 2008年7月15日(招待講演)“God and Muslim’s world in the Arabian Nights : How Europeans encountered the Arabic world”, Oxford round table “Allusions to God in Prose and Poetry”, 15 July 2008, at St. Anne College, Oxford (England)

鷺見朗子 2008年4月27日(招待講演)“The Frame Story of the Hundred and One Nights: Departure or Arrival?”, American Comparative Literature Association 2008 Annual Meeting, California State University (Long Beach, CA).

ホームページ等

http://www.jttk.zaq.ne.jp/arabian_nights/galland_index.html